

# 安中市都市計画マスタープランの改定 進捗状況

## 計画の役割と目的

都市計画マスタープランは、都市及び地域の望ましい都市像を明らかにし、都市計画として実現していくための方針を長期的な視点に立ってまとめたものです。

また、都市計画道路や公園など、ハード面の整備計画や、用途地域や地区計画などの規制・誘導の手法に加え、実現に向けた市民参加の方向性などを描くものであり、市民参加型のまちづくりを誘導していくための方向性を示すものです。

## 計画の位置づけ

都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2に示される「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、市が策定する「安中市総合計画」や、群馬県が策定する「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）」に即すとともに、市の分野別計画とも整合を図り策定します。

また、用途地域をはじめとした個別の都市計画を決定・変更していく際の方向性、必然性、根拠を示すものとなります。

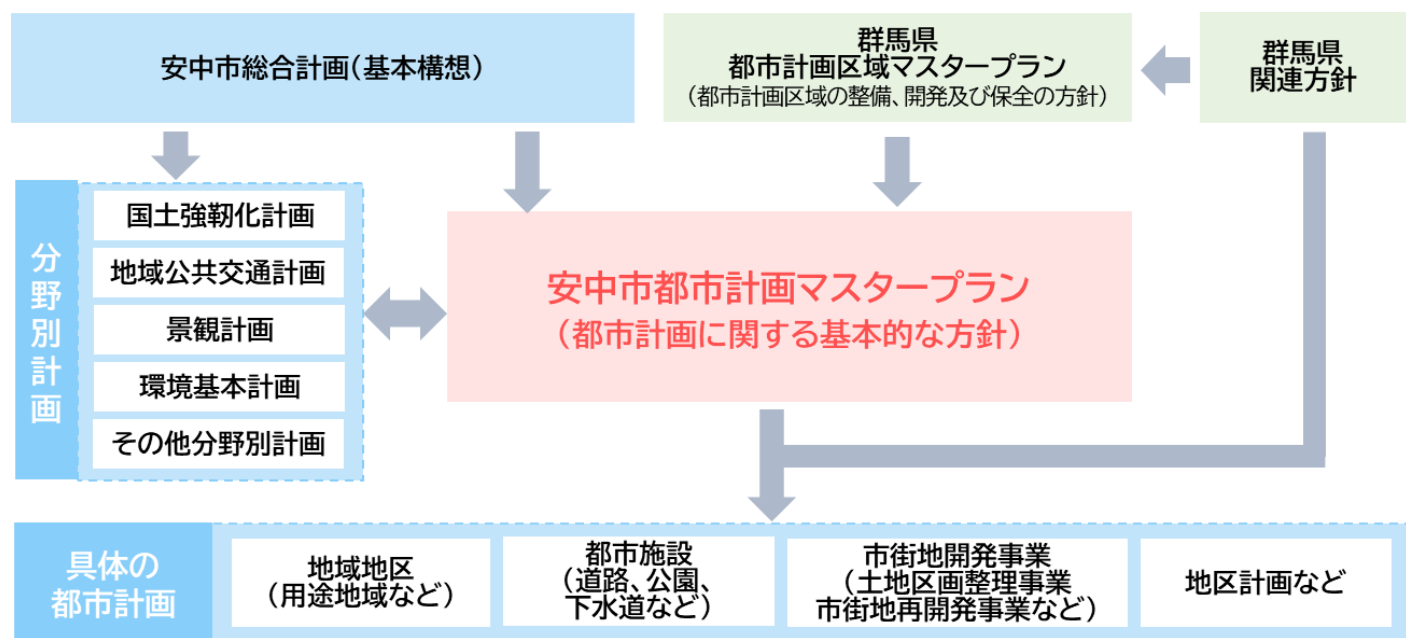
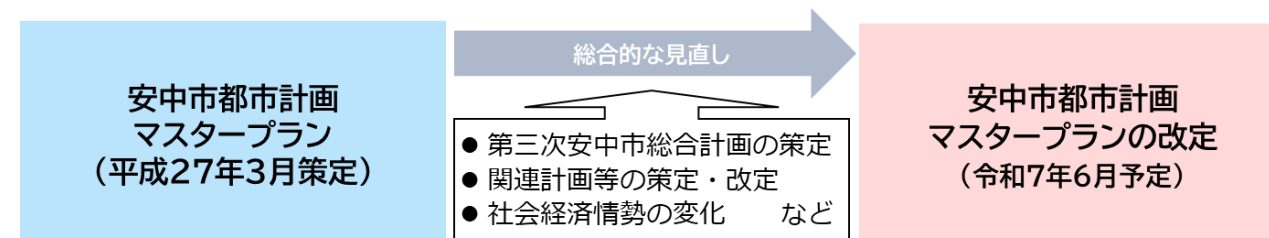


図 都市計画マスタープランの位置づけ

## 都市計画マスタープラン改定の背景

安中市では、平成27（2015）年3月に「安中市都市計画マスタープラン」を策定しました。

計画の策定から8年が経過し、社会情勢の変化や上位計画である「第3次安中市総合計画」の策定、関連計画などの策定・改定などを踏まえ、これらに即し、また整合を図った総合的な見直しを行うため、安中市都市計画マスタープランを改定します。

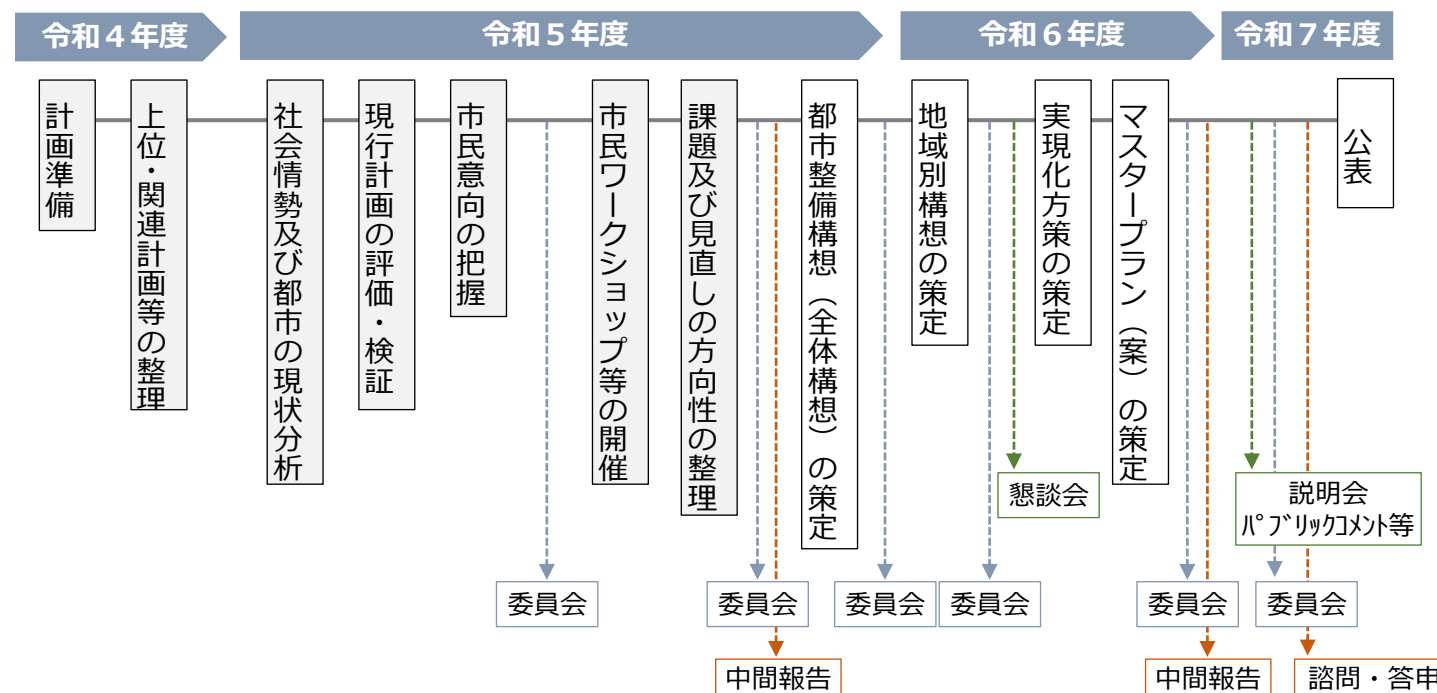


## 計画の目標年度

概ね20年後の令和27（2045）年を目標年次とします。

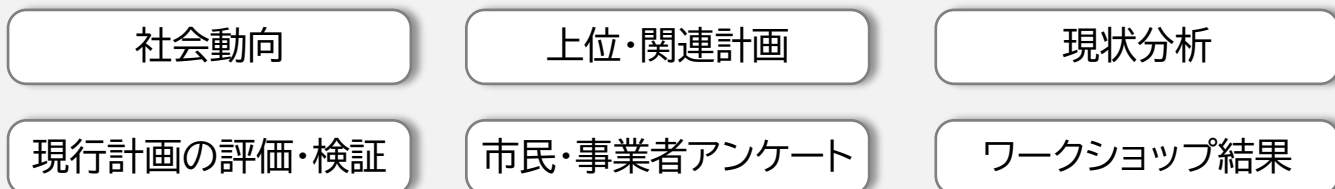
## 改定のスケジュール

改定都市計画マスタープランは、令和7年6月策定予定としています。



# 安中市の課題と見直しの方向性

## ■安中市の課題



### ※赤字：改定都市マスで新規に追加した課題

### 土地利用・産業

- ・コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりの実現
- ・持続可能なまちづくり
- ・特定用途制限地域導入に向けた取組の推進
- ・周辺農業農村環境と調和した計画的市街地整備推進、宅地化の誘導
- ・西毛広域幹線道路と国道18号及びJR信越本線が交差する市役所周辺における都市機能や生活機能の誘導
- ・新駅設置に伴う周辺の道路整備や土地利用の再編
- ・低未利用地、施設跡地の有効利用と適正維持管理の促進
- ・地区レベルの拠点施設の機能複合、統合化、管理への市民参加促進
- ・既存工業機能と関連する用地需要に応える産業用地の整備供給
- ・縁辺部住宅市街地の系統的基盤整備、良好居住環境形成・保全
- ・中心市街地での建築物更新にともなう都心型住宅の建築誘導
- ・市内住替えに資する適地への市営住宅の集約更新整備、長寿命化
- ・農村集落地における開発・建築の規制誘導による集落環境保全
- ・横川駅に新たに整備する道の駅を最大限に活用した、地域の魅力や観光情報、特産品等の情報発信
- ・既存観光地の連携強化
- ・磯部温泉周辺の活性化

### 交通

- ・国道18号や西毛広域幹線道路を中心とした道路ネットワークの構築
- ・新駅設置による新たな公共交通のネットワークの構築
- ・交通弱者の利用需要に即した乗合バス・乗合タクシーの路線の適正化、拡充・機能再生
- ・MaaS等の新技術を利用した交通の利便性の向上
- ・新駅設置、磯部温泉周辺活性化、横川駅に隣接して整備する道の駅などによる鉄道沿線の活性化など
- ・バリアフリー計画を活かしたまちづくり

### 水・みどり・環境

- ・自然環境の保全や公園施設等の維持管理への地域住民参加の促進
- ・再生可能エネルギーの活用等、ゼロカーボンシティ実現に向けた施策の推進
- ・親水空間等、自然を活用した交流空間の創出

### 防災

- ・防災拠点、避難・救援・備蓄機能の分散配置とネットワーク確立
- ・自然災害に対する防災・減災や復興まちづくりの事前準備の検討

### 生活環境

- ・生活道路の整備や上下水道の長寿命化
- ・デジタル技術等の活用による日常生活の利便性の向上
- ・地域特性を活かした地域の活性化
- ・空家などの未然防止
- ・耕作放棄地や空地・空家などの利活用

### 景観

- ・重層する交通史跡と美しい自然を都市づくりに活かす景観形成
- ・新駅や西毛広域幹線道路整備にともなう周辺や沿道の良好な景観形成

## 見直しの方向性

安中市では少子高齢化が進行しており、計画の目標年度である20年後には高齢化率が約50%と予測され、超高齢社会を迎えようとしています。これに伴い、社会保障費の増加や、公共交通や生活サービス施設等の日常生活を支える都市機能の不足など、都市の経営や持続可能性に対して懸念が生じています。

また、地球温暖化をはじめとする気候変動により、自然災害が激甚化・頻発化しており、まちの安全性に対する要望が高くなっている他、新型コロナウイルス感染症の流行を契機とした、人々の暮らし方や働き方の多様化、AIやIoT等の先端技術を活用した自動運転技術やスマートシティへの取組の強化など、まちに求められる機能にも変化が生じています。

これらをはじめとした、まちに求められる機能に対応するため、持続可能なまちづくりの推進が必要です。

都市の構造では、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを推進し、都市機能や生活機能が集積した拠点を形成するとともに、各拠点を公共交通で有機的に結ぶことで、日常生活の利便性を向上させ、誰もが安心して住み続けることができるまちの形成を図ります。農村地区では周辺の自然環境との調和を図りつつ、コミュニティの活力の維持増進を図ります。

また、ゼロカーボンシティ実現への取組や水・みどりの利活用を推進することで、安中市が有する豊かな自然環境を後世に引き継ぎつつ、自然災害に対しては、災害リスクの高い地区以外への住居の誘導や都市基盤の強靱化、復興まちづくりの事前準備などにより、安全な市民生活が確保された自然環境と共生したまちの形成を図ります。

社会情勢や地域特性、まちに求められる機能など、幅広い視点で考慮し、20年後の安中市が豊かで持続可能な都市を形成するため、都市計画マスタープランを改定します。

# 将来像・都市づくりの基本理念

## 【将来都市像(案)】

都市の特性や上位・関連計画、見直しの方向性を踏まえ、将来都市構造を次のように設定します。

**つなぎ 紡ぐ 人とまち**  
**魅力あふれる自然と 歴史重ねるまち あんなか**

人と人がつながる。人とまちがつながる。そして地域と地域がつながり、10年、20年先も住み続けたいと思えるまちづくりを行います。そしてコンパクト・プラス・ネットワークや持続可能なまちづくりの実現を目指し、新たなまちの拠点整備やそれらを繋ぐ西毛広域幹線道路等のネットワークの整備を進めます。また、今ある魅力的な自然・歴史景観、文化財などを後世に継承するとともに、新たな歴史を重ねて新しいあんなかをつくるために、この将来都市像を掲げます。

### ○つなぎ 紡ぐ 人とまち

- ・人と地域がつながり、連携していく
- ・コンパクト・プラス・ネットワークや持続可能なまちづくり
- ・「紡ぐ」には古くから養蚕で栄えた文化を表し、養蚕・製糸の歴史が詰まっている
- ・西毛広域幹線道路の開通や新駅構想など、近隣自治体とのつながりも重視

### ○魅力あふれる自然

- ・妙義山や崇台山などの山
- ・碓氷湖や妙義湖などの湖
- ・碓氷峠
- ・碓氷川や九十九川などの河川
- ・麻苧の滝、仙ヶ滝
- ・秋間海林

### ○歴史を重ねるまち

- ・様々な歴史を後世に残し、未来へつなぐようなイメージ
- ・板倉勝明、湯浅治郎、新島襄、柏木義円
- ・世界文化遺産登録を目指す、碓氷峠の鉄道遺産群
- ・4つの宿場町が設けられているなど、街道のまちとして栄えてきた
- ・碓氷関所が設置されて400年を迎える
- ・安政遠足は令和6年で50回目を迎える
- ・安中藩の城下町としても知られ、松井田城址も国史跡指定を目指し地域の盛り上がりを見せている

## 【第3次安中市総合計画 まちの将来像(令和6年策定予定)】

### ○まちの将来像

これまで本市が進めてきたまちづくりの経験・実績を踏まえるとともに、まちの「魅力」や市民の「生活力」と「幸福度」を向上し、少子化対策、人口の減少抑制策につなげるため、まちの将来像を次のように掲げます。

**住んで良かった 豊かで魅力ある元気な 新しいあんなか**  
**～さらに、光り輝くまちへ～**

### ○まちづくりの基本目標

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 未来を担う 子どもたちが健やかに育つまち   | 【少子化対策、子育て支援など】         |
| 2 支え合い 誰もが健康長寿で暮らしやすいまち  | 【健康、福祉、医療など】            |
| 3 安全・安心で心地よく 住み続けられるまち   | 【都市基盤、安全・安心など】          |
| 4 自分らしく 心豊かに暮らせるまち       | 【教育、文化、都市間・国際交流、市民参加など】 |
| 5 豊かな自然を活かし 快適で住みやすいまち   | 【環境保全、住環境など】            |
| 6 経済が活性化し 元気で 魅力にあふれるまち  | 【産業、雇用、観光など】            |
| 7 市民のための健全な行財政運営と 市の魅力向上 | 【行財政、自治体 DX など】         |

## 【まちづくりの基本目標(案)】

将来都市像を実現するための具体的な5つの目標を設定します。

### 魅力を高め 多様な人が活動し いきいきと交流するまち

西毛広域幹線道路の整備や、JR 信越本線への新駅設置、安中市役所庁舎の建替え、工業団地の創設や増設、公有地の利活用など都市基盤の整備にあわせて、商業・業務機能の拡充を図り新しい魅力を創出するとともに、道の駅の新設や磯部駅周辺の活性化など、市が有する観光資源を活用し、魅力を磨くことで、市民や従業者、観光客など多様な人でにぎわうまちを目指します。

### 多様な移動手段が確保され 誰もが心地よく生活できるまち

電車、バス、タクシー等の公共交通が有機的に結ばれ、学生や子育て世代、高齢者など、様々な条件や環境にある人が自分にあった交通手段を選択することができ、誰もが日常生活を便利で心地よく生活できるまちを目指します。

### 未来を拓く より暮らしやすく新しいまち

AI や IoT、自動運転技術やスマート農業をはじめとする先端技術を積極的に活用することで、交通問題や人手不足などの社会的課題に取り組むとともに、市役所の DX 推進など新しい技術を活用することで、より暮らしやすく新しいまちを目指します。

### 誰もが安全で安心し、心豊かに暮らし続けられるまち

新庁舎の建替による防災拠点機能の強化をはじめとしたまちの強靱化を図ることで、激甚化・頻発化する自然災害から市民を守り、安全な生活を保障するとともに、温室効果ガス排出量実質ゼロへの取組や SDGs の取組などにより、将来にわたり暮らし続けることができるまちを目指します。

### 歴史・文化を継承し 自然とともに生きるまち

先人たちが築いてきた歴史・文化と、広大で豊かな自然環境や生態系を守るだけでなく、活用することで市の魅力を磨き、後世に継承することを目指します。



# 将来都市構造

## 1. 土地利用構成の大枠(土地利用エリア)

### 基本的な考え方

- 「エリア」は、土地利用の特性に応じた構成の大枠を示します。
- 用途地域に指定もしくは今後指定される可能性がある地域を市街地エリア、都市計画区域を田園・集落エリア、都市計画区域外を山林環境エリアに指定。

### ■市街地エリア：

- 国道18号、JR信越本線などの東西方向広域交通路に沿った既存市街地と、その縁辺部、整備が進められている西毛広域幹線道路の沿道一部を、体系的な基盤整備を進める「市街地エリア」とします。
- 「市街地エリア」では、安中・板鼻地域、原市・磯部地域、松井田地域にまたがり、それぞれ3つの「まちのまとまり」ごとに、コンパクトな市街地の形成を図ります。

### ■田園・集落エリア：

- 市街地エリアと山林自然環境エリアの間に広がる河川沿いの農地、里山とそれに介在する集落地の区域を「田園集落エリア」とします。
- 自然環境・農業生産環境との調和を図りつつ、集落地の生活環境の改善整備を進め、地域コミュニティの活力の維持増進を図ります。

### ■山林自然環境エリア：

- 市域西部の自然公園地域、森林地域を「山林自然環境エリア」とします。
- 自然公園法、森林法に基づく自然環境の保全と、広域観光交流や環境学習の場としての活用を図ります。
- 農地・山林とそれに介在する集落地については、周辺の山林自然環境との調和を図りつつ、生活道路の整備などによる集落地の生活環境の改善と、山林・農地の管理・活用による荒廃の防止を進め、コミュニティの活力の維持増進を図ります。

## 2. 都市の拠点とゾーンの配置

### 基本的な考え方

- 「拠点」は、都市機能や生活サービス機能が集積する市民生活の中心となる地点を示し、「ゾーン」は、地域の資源を活かす範囲の広がりを示します。
- 駅を中心とした都市機能や生活サービス機能、交通結節点が集積する地点を拠点、工業団地や観光資源等が集約する場所をゾーンに指定。

### 都市拠点

- 生活サービス機能や公共施設などの都市機能が集積するとともに、都市の交通が集中する市の中心的な拠点  
⇒「安中市役所・安中駅周辺」

### 地域生活拠点

- 都市拠点の機能を補完するとともに、交通結節機能を有し、生活サービス機能が集積する、地域生活を支える拠点。  
⇒「原市交差点・磯部駅周辺地区」、「松井田・西松井田駅周辺地区」、「横川駅周辺地区」、「安中榛名駅周辺地区」

### 産業振興ゾーン

- 市の産業を支え、地域の身近な職場としての通勤や広域的な物流のための交通の強化を図るゾーン。  
⇒「一団の大規模産業用地」、「工業団地」など

### 広域観光交流ゾーン

- 地域の資源や歴史・文化など適切に保全しつつ、広域観光を促進するための環境や機能を計画的に整えるゾーン。  
⇒「板鼻宿」、「安中宿・安中城址周辺」、「磯部温泉」、「秋間梅林」、「松井田宿・松井田城址」、「妙義山麓」、「横川・坂本宿・碓氷峠周辺」

## 3. 都市軸・地域軸の構成

### 基本的な考え方

- 「軸」は、市内の各拠点や都市機能などの結びつきを強化する道路や鉄軌道を示します。
- 都市軸は、市内の主要な交通を支えるとともに、沿道の利活用を進め、にぎわいや生活サービス機能を創出する軸を示し、地域軸は、都市軸の補完として、市内の交通を支える軸として示します。

### ■都市軸：

#### ○東西幹線軸(国道18号・旧中山道沿道・JR信越本線沿線)

- 歴史的にも都市の背骨であり、周辺市と市内の4拠点を繋ぐだけでなく、都市機能の連担集積も図る骨格的な軸

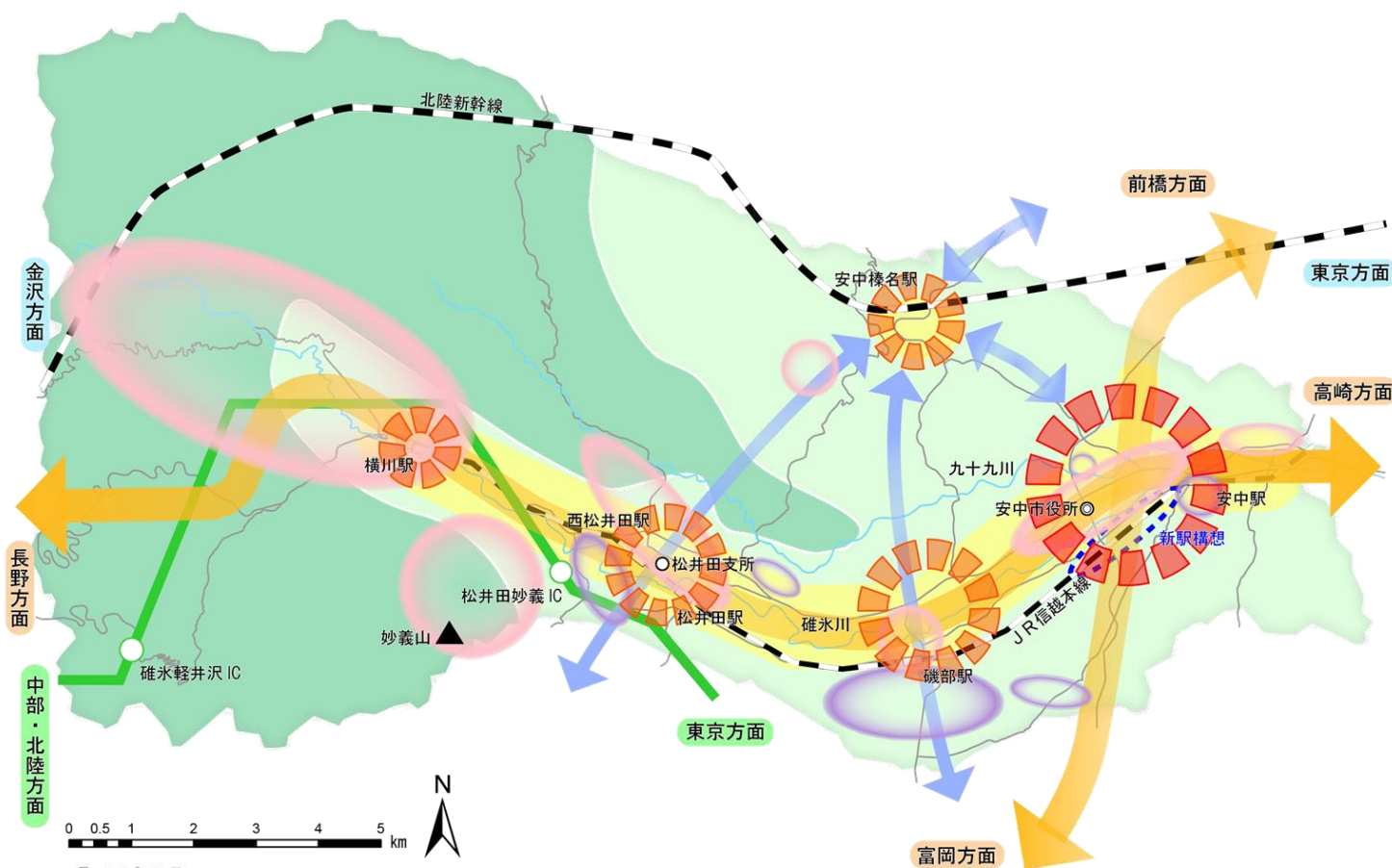
#### ○西毛広域軸(西毛広域幹線道路沿道(都市計画道路3・6・10南北中央幹線))

- 西毛広域幹線道路の整備により、前橋方面と富岡方面をつなぎ新たな交流を育むとともに、沿道では住環境や景観に配慮した適切な土地活用を図る軸

### ■地域軸：

- 都市軸を補完する軸として、周辺市や市内の各拠点と市街地を結び、人・モノの円滑な移動を担う、地域生活を支える軸

【将来都市構造図(改定計画)】



### 【凡例】

- |           |     |           |            |
|-----------|-----|-----------|------------|
| 都市拠点      | 都市軸 | 市街地エリア    | 鉄道・新幹線・駅   |
| 地域生活拠点    | 地域軸 | 田園・集落エリア  | 自動車専用道路・IC |
| 産業振興ゾーン   |     | 山林自然環境エリア |            |
| 広域観光交流ゾーン |     |           |            |